

6 林業

項目	作業内容
(1) 被害対策の特徴を知る	<p>(今月の作業のポイント) ○林地における獣害対策</p> <p>冬季は餌が少なくなるため、特に獣害が発生しやすい時期となる。その中でも特に、ニホンジカによる植栽木への被害は深刻化している。そのため、被害の状況や対策の特徴、コスト等を考慮して、適切な防除方法を検討する必要がある。以下に、シカ被害対策選択のポイントについて説明する。</p> <p>○防護柵（写真1） 造林地の周囲を柵で囲んでシカの侵入を防ぐ方法 • 柵が破損すると造林地全体が被害を受けるリスクがある。 • 急傾斜や沢・谷を含む造林地では柵が破損しやすい • 植栽面積が広いと単木保護・大苗と比べて安価に設置できる。</p> <p>○単木保護（写真2） 植栽した苗木を1本ずつ筒状の資材で保護する方法 • 柵が設置しにくい地形でも柔軟に対応できる。 • 苗木が資材の高さを超えるとシカ被害を受ける • 資材費が高く、植栽面積が広いと高コスト</p> <p>○大苗植栽（写真3） シカの口が届く高さより大きな苗木を植栽する方法 • 他の対策と比べて防護資材の撤去がほとんどない • 苗木の高さは少なくとも150cm程度は必要 • 苗木代が高く、植栽面積が広いと高コスト</p>    <p>写真1 防護柵 写真2 単木保護 写真3 大苗植栽</p>

項目	作業内容
(2) シカ被害を予測する	<p>○広域地図で大まかに判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推定生息密度マップの作成（図1） <p>○現地で簡単な調査をして判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造林地へのシカ出現頻度の予測（図2） ・造林地の被害度を予測（図3） <p>図1 四国のシカ生息密度分布(2015)</p> <p>図2 皆伐地ごとの食痕スコアとシカ出現頻度の関係</p>
(3) 設置・撤去コストを考える	<p>3種類の被害対策（防護柵、単木保護、大苗植栽）の資材費や撤去費、補助金を考慮して、50年伐期で採算性を比較したところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植栽面積が広い場合には防護柵が有利 ・植栽面積が狭い場合に、単木保護・大苗植栽のメリットがある <p>※ただし、単木保護では資材費が高く、大苗植栽では苗木代が高いため、植栽密度を低く抑える必要がある</p>
(4) 被害対策を選択する	<p>防護可能なシカ影響レベル、コストに見合う植栽面積、地形による資材の壊れやすさを判断し、被害対策の種類を選択する。</p> <p>※参考文献 森林総合研究所九州支所(2021) 西日本の若齢造林地におけるシカ被害対策選択のポイント</p>

(作成 林業研究センター)

